

# 名倉地区防災福祉コミュニティ 地域おたすけガイド

## 地域おたすけガイドの作成にあたって

- ◎地域おたすけガイドは、地域の皆さんが災害時に活動する際に、活用するものです。
- ◎災害時は周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分たちのできる範囲で活動を行うことが大前提です。
- ◎防コミで訓練を通して繰り返し検証して、名倉地区に適したガイドにするために、どんどん見直していきましょう。

平成28年3月作成  
名倉地区防災福祉コミュニティ

## ■名倉地区の主要施設・設備等

防コミ運営本部 設置場所	名倉地域福祉センター		
地域福祉センター 鍵保管者	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>		
一時集合場所	名倉交番 (名倉町 3・4・5 丁目)	明泉寺南公園 (明泉寺町)	片山児童館 (片山町 3・4・5 丁目)
	市営明泉寺集会所 (明泉寺町)	明泉寺北公園 (明泉寺町)	明泉寺大日寺 (明泉寺町)
	長田天神高層住宅中棟前広場 (長田天神町 5・6 丁目)		名倉幼稚園 (長田天神町 1・4 丁目)
防災資機材庫の場所	名倉 地域福祉センター	防コミ資機材庫 (名倉小学校中庭)	明泉寺北公園
避難所	名倉小学校	丸山中学校	
耐震性防火水槽	明泉寺北公園		
災害時要援護者 名簿保管場所	無し		
防災行政無線保有者	<input type="text"/>	<input type="text"/>	

### (参考) 防コミ運営本部設置基準

- ・震度 5 弱以上若しくは兵庫県瀬戸内海沿岸に津波警報が発表された場合、地震による災害が発生し、又は災害が拡大する恐れがある場合。
- ・特別警報が出された場合。
- ・上記のほか、大雨等で神戸市に土砂災害警戒情報が発表された場合。

### (参考) 避難勧告の種類 (平成 28 年 12 月変更)

#### 【避難準備・高齢者等避難開始】

避難に時間を要する人 (ご高齢の方、障害のある方、乳幼児をお連れの方等) は避難を開始しましょう。

#### 【避難勧告】

緊急避難場所や、安全な場所にある知人や親戚の家へ避難をしましょう。地下空間にいる人は、速やかに安全な場所に避難しましょう。

#### 【避難指示(緊急)】

まだ避難していない場合は、直ちにその場から避難をしましょう。外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

# ■防コミ運営本部と自治会の連絡体制

( )  
☎ ( )

( )  
☎ ( )

( )  
☎ ( )

( )  
☎ ( )

( )  
☎ ( )

( )  
☎ ( )

( )  
☎ ( )

( )  
☎ ( )

( )  
☎ ( )

( )  
☎ ( )

**防コミ運営本部**

**名倉小学校**  
☎ 691-6181  
( )  
☎ ( )  
( )  
☎

**丸山中学校**  
☎ 691-0005  
( )  
☎ ( )  
( )  
☎

片山町3・4・5丁目自治会  
( ) ( ) ( ) ( )  
☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( )

大丸町2丁目自治会  
( ) ( ) ( ) ( )  
☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( )

大丸町3・房王寺4・5丁目自治会  
( ) ( ) ( ) ( )  
☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( )

名倉町1・2丁目自治会  
( ) ( ) ( ) ( )  
☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( )

名倉町3・4・5丁目自治会  
( ) ( ) ( ) ( )  
☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( )

明泉寺町自治会  
( ) ( ) ( ) ( )  
☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( )

明泉寺町 市営住宅自治会  
( ) ( ) ( ) ( )  
☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( )

長田天神町1・2・3・4丁目自治会  
( ) ( ) ( ) ( )  
☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( )

長田天神町自治会  
( ) ( ) ( ) ( )  
☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( )

長田天神高層住宅自治会  
( ) ( ) ( ) ( )  
☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( )

房王寺市営住宅連合自治会  
( ) ( ) ( ) ( )  
☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( )

房王寺6・7丁目自治会  
( ) ( ) ( ) ( )  
☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( ) ☎ ( )

## ■防コミ運営本部の班編成

### 防コミ運営本部（名倉地域福祉センター）

#### 情報収集 ・伝達班

- \* 地区内の被害状況を収集し、ホワイトボード等に時系列で記載する。
- \* 収集した各種情報を、防コミ役員に伝達する。

#### 安否確認班

- \* 避難者名簿を作成する。
- \* 事前に用意している災害時の要援護者名簿に基づき、民生・児童委員等と協力して安否確認を行う。

#### 消火班

- \* 小型動力ポンプやあらゆる消火器具等を活用して初期消火を行う。
- \* 出火場所を確認し、消火活動人員を割り振る。

#### 救出・救護班

- \* 防災資機材（のこぎり、バール等）を活用し、救出活動を行う。
- \* 負傷者の救護（応急手当）を実施する。

#### 避難支援班

- \* 避難所に避難する必要がある災害時要援護者の避難支援を行う。
- \* 本部に集まった人で、支援者の割り振りを行う。

#### 資源管理班

- \* 救出・救護等に必要防災資機材の確保・管理を行う。
- \* 非常食や水の確保・管理を行う。

## ■防コミ運営本部の活動班メンバー

※活動班の編成は集まったメンバーで随時決める

活動班	班長	副班長	リーダー
情報収集・伝達班			
安否確認班			
消火班			
救出・救護班			
避難支援班			
資源管理班			

# ①風水害

## 【災害発生前】

□は、その行動が完了したら✓をつける。

### 0 防コミ役員間での連絡 ⇒ 防コミ運営本部を立ち上げるかどうかの判断

- 気象情報、土砂災害警戒情報等を収集し、地域の状況を電話等で確認する。
- 防コミ役員連絡網の作成  
⇒P.2「防コミ運営本部と自治会の連絡体制」で名前の挙がった人は、防災福祉コミュニティの役員として活動してもらう。

### 1 防コミ運営本部の立ち上げ

- 防コミ運営本部に役員が揃わないことが予想されるが、集まったメンバーで本部を立ち上げる。
- 本部に駆けつけた役員の中から統括防災リーダーを決定する。
- 統括防災リーダーは集まってきたメンバーで、「情報収集・伝達班」、「安否確認班」、「資源管理班」等の班編成を行う。
- 本部に地域の地図、防災マップ、災害時要援護者名簿などを配置する。  
また、メンバーで情報を共有するためホワイトボードや模造紙を準備する。

### 2 情報収集・伝達【情報収集・伝達班：P.16「情報収集・伝達」指示書参照】

- 防災行政無線、ラジオ、テレビ等から気象情報、土砂災害警戒情報等を収集する。
- 収集した情報は、有線電話、携帯電話等により、防コミ役員に伝達する。
- 洪水や土砂災害の危険性が予測される場合は、災害時要援護者に早期の自主避難を呼びかける。また、各自治会の活動班による災害時要援護者避難誘導が実施できるよう体制を整える（人員確保等）。

### 3 組織内の連絡体制の確保

- 情報伝達の手段や順番（誰が誰にどのように伝えるのか）をあらかじめ整理しておく。

### 4 災害時要援護者の避難誘導【避難支援班：P.20「災害時要援護者の避難支援」指示書参照】

- 洪水や土砂災害の危険性が予測される場合で、災害時要援護者が自ら避難できない場合は、各自治会の活動班により避難誘導を実施する。  
⇒災害時要援護者の安否確認を行いながら、地域福祉センターに参集する。  
⇒安否確認票（記入用名簿）の作成。  
⇒ある程度動ける人は、自治会と民生委員が連携して地域福祉センターへ避難する。

### 5 資機材等の確保【資材管理班】

- 災害発生時に備えて、防災資機材の確保や非常食等の確保をする。
- 状況に応じて、資機材を避難場所へ分配する。

## 【災害発生直後】

### 1. 防コミ運営本部による指揮

- (【災害発生前】と同様の方法で防コミ運営本部を立ち上げる。)
- 「情報収集・伝達班」は地区内の被害情報を収集し、被害状況に応じて、各自治会に活動内容の具体的指示(情報収集・伝達、安否確認、被災者の救出・救護等)を出す。
- 「資源管理班」は本部の防災資機材を、必要に応じて各自治会に分配する。
- 各自治会の活動班の人員が不足している場合は、本部から人員を派遣する。

### 2. 自治会毎の災害対応

- 防災活動が可能な市民は、最寄りの公園や集会所等といった一時集合場所に集まり、数名で班を編成し防災活動を行う。
- 自治会役員及び防コミ役員が中心となり、「救出・救護」など、対応すべき災害に応じた班を集まってきた市民で編成する。

### 3. 情報収集・伝達【情報収集・伝達班：P.16「情報収集・伝達」指示書参照】

- 防災行政無線、ラジオ、テレビ等から気象情報、土砂災害警戒情報等を収集する。
- 防災行政無線等により収集した気象情報等は、有線電話、携帯電話等により、防コミ役員に伝達する。
- 有線電話、携帯電話等により、各自治会の連絡担当者からそれぞれの地区の被害状況や住民の安否等の状況調査を行う。

### 4. 安否確認【安否確認班：P.17「安否確認」指示書参照】

- 事前に用意している自治会名簿や災害時の要援護者名簿に基づき、民生・児童委員等と協力し、安否確認を行う。
- 避難してきた人には避難者名簿に記入をしてもらう。

### 5. 救出・救護【救出・救護班：P.19「救出・救護活動」指示書参照】

- 二次災害に注意しながら、自治会単位で防災資機材を使用し、被災者を救出する。
- 防コミ役員が中心となり、地域福祉センターに集まった人で、救出活動人員の割り振りをする。
- 被災者が負傷している場合は、止血等の応急手当を実施し、医療機関に搬送する。

### 6. 区や消防署への連絡

- 被害情報、活動情報等を区役所や消防署に連絡する。
- 避難所運営で必要な事項を区役所等へ伝える。

### 7. 避難所のたちあげ

- 学校関係者や区役所職員と協力して避難所をたちあげる。
- 避難者名簿を作成する。  
⇒避難してきた人に記入してもらう「避難者名簿(記入用紙)」を作成し、地域福祉センターに保管しておく

## ②地震

### 【災害発生直後】

**個人の行動** ⇒日頃からの防災意識の向上（非常用持ち出し袋の用意等）

#### 1 地震発生直後の安全の確保

- 地震の揺れを感じたら、まず、丈夫なテーブルの下に隠れるなど、身の安全を確保する。
- 家族の安全を確認する。
- 火を使用している場合は、可能な限り火を止める。
- 電気のブレーカーを落とす。
- 火災が発生すれば消火器等で初期消火を行う。
- ラジオなどで情報の確認。

### 防災福祉コミュニティとしての活動

#### 1 防コミ運営本部の立ち上げ

- カギを持っている人は、無事なら地域福祉センターを開ける。あるいは、防コミ役員がカギをもらいに行き、地域福祉センターを開ける。
- 防コミ運営本部に役員が揃わないことが予想されるが、集まったメンバーで本部を立ち上げる。
- 本部に駆けつけた役員の中から統括防災リーダーを決定する。
- 統括防災リーダーは集まってきたメンバーで、「情報収集・伝達班」、「安否確認班」、「資源管理班」、「消火班」、「救出・救護班」、「避難支援班」等の班編成を行う。
- 本部に地域の地図、防災マップ、災害時要援護者名簿などを配置する。  
また、メンバーで情報を共有するためホワイトボードや模造紙を準備する。
- 「情報収集・伝達班」は各自治会から地区内の被害情報を収集し、被害状況に応じて、各自治会に活動内容の具体的指示（情報収集・伝達、安否確認、被災者の救出・救護等）を出す。
- 「資源管理班」は本部の防災資機材を、必要に応じて各自治会に分配する。
- 各自治会の活動班の人員が不足している場合は、本部から人員を派遣する。

#### 2 自治会毎の災害対応

- 防災活動が可能な市民は、最寄りの公園や集会所等といった一時集合場所に集まり、数名で班を編成し防災活動を行う。
- 自治会役員及び防コミ役員が中心となり、「救出・救護」など、対応すべき災害に応じた班を集まってきた市民で編成する。

#### 3 情報収集・伝達【情報収集・伝達班：P.16「情報収集・伝達」指示書参照】

- ラジオ、テレビ、防災行政無線等で地震情報等の収集を行う。
- 防災行政無線等により収集した地震情報等は、伝令等により、各自治会に伝達する。
- 伝令等により、防コミ役員から各地区内の被害状況や住民の安否等の状況調査を行う。

※地震時は有線電話、携帯電話は使用できないと考えた方がよい。



#### 4 安否確認【安否確認班：P.17「安否確認」指示書参照】

- 事前に用意している自治会名簿や災害時の要援護者名簿に基づき、民生・児童委員等と協力し、安否確認を行う。

#### 5 消火活動【消火班：P.18「消火活動」指示書参照】

- 自治会単位で耐震性防火水槽の小型動力ポンプやあらゆる消火器具等を活用し初期消火を行う。  
⇒消火器の研修を受けた人が中心となる
- 各自治会と連携して、出火場所を確認する。
- 防コミ役員が中心となり、地域福祉センターに集まった人で、消火活動人員の割り振りをする。  
⇒ポンプの使い方の研修を受けた人がリーダーとなる  
※火災の規模によっては消火器やバケツリレーでの消火も重要。

#### 6 救出・救護活動【救出・救護班：P.19「救出・救護活動」指示書参照】

- 二次災害に注意しながら、自治会単位で防災資機材を使用し、負傷者を救出する。  
※救出にはジャッキやバール、のこぎりなどが有効。
- 防コミ役員が中心となり、地域福祉センターに集まった人で、救出活動人員の割り振りをする。
- 被災者が負傷している場合は、止血等の応急手当を実施し、医療機関に搬送する。

#### 7 災害時要援護者の避難支援【避難支援班：P.20「災害時要援護者の避難支援」指示書参照】

- 自宅の損傷の状況等により、避難所等に避難する必要がある災害時の要援護者の避難支援を行う。
- 防コミ役員が中心となり、各自治会と連携して、地域福祉センターに集まった人で、支援者の割り振りをする。
- 要援護者も無事であれば、自宅待機⇒情報をセンターに集約する。
- 避難所へ自力で来られた人には、安否確認票に記入してもらう。

#### 8 区や消防署への連絡

- 被害情報、活動情報、要援護者の避難状況等を区役所や消防署に連絡する。
- 避難所運営で必要な事項を区役所等へ伝える。

#### 9 避難所のたちあげ

- 学校関係者や区役所職員と協力して避難所をたちあげる。
- 避難者名簿を作成する。
- 自宅待機の人へ情報発信を行う。
- 支援物資を配布する（自宅待機の人も含めて）。

### ③共通事項

【数時間後～3日（72時間）ぐらいまで】

#### 1 役割分担の見直し

- 防災福祉コミュニティの役員の集結状況や災害の状況に応じて役割を見直す。

#### 2 避難所の運営

- 学校関係者、区役所職員や災害ボランティアと協力して避難所の運営にあたる。
- 女性や子育て家庭への配慮。
- 同行避難してきたペットへの配慮。
- 災害時要援護者への配慮。

（要援護者ご本人やご家族の意向を踏まえ、避難所内に一般の方と分けした要援護者のための福祉避難室を設けるなどの対応：保健室の利用など）

※特に、知的や精神、発達障がい者のうち、集団生活に対応することが困難な方、透析患者やオストメイト（人工肛門など）などの内部障がい者について、特別な配慮が必要であることを、他の避難者に理解していただくことが大切。

- 福祉避難所（次頁参照）を必要とする方について、避難所を巡回する市の保健師へつなぐ。

#### 3 生活情報の収集

- 生活情報を収集し、住民へ周知する。

#### 4 防火・防犯パトロール

- パトロール班を結成し、交代で地域内のパトロールを行う。

## 「福祉避難所」について

神戸市では、避難所での生活において、何らかの特別な配慮を要する方のための二次的避難所として、地域福祉センターや特別養護老人ホームなど、357箇所を「福祉避難所」に指定しています（平成29年3月末時点）。

福祉避難所の対象者は、市の保健師が避難所で行う健康調査等をもとに、ご本人やご家族の意向や状況を踏まえ、市が決定します。

要援護者から福祉避難所への直接避難の相談があった場合は、区災害対策本部へ連絡いただくよう、対応をお願いします。

※福祉避難所の開設は、対象者の人数や施設の状況、対応可能な人員や物資の確保の状況等を踏まえて、市が判断します。災害時に常に開設される訳ではありませんので、要援護者の方を含め、まずは一般避難所へ避難していただくことになります。

## 災害時要援護者とは

災害が発生した場合に、安全な場所に避難したり、避難場所での生活において困難が生じて、まわりの人の助けを必要とする方

- ・障がいのある方
- ・介護が必要な方
- ・高齢者（ひとり暮らしの方、高齢者世帯など）
- ・難病患者、乳幼児、妊産婦のほか、災害時に負傷した方など自力で避難することが難しい方

## ■名倉地域福祉センター防災資機材庫 収容品リスト

区分	品名	数量	区分	品名	数量	区分	品名	数量		
消火用資機材	動力消防ポンプ		個人装備品	ヘルメット	29	搬送用 本 部 用 資 機 材	折畳みリヤカー			
	粉末消火器			Tシャツ	18		一輪車			
	強化液消火器	6		夜光ベスト			台車	3		
	訓練用消火器			手袋(軍手)			本部用テント			
	布バケツ			腕章			折畳み式テーブル			
	組立水槽			携帯用電灯			携帯発電機			
	オイルパン			皮手袋			投光機			
	スタンドパイプ		救出・救助用資機材	スコップ			訓練用放送セット			
	消火栓キー			バール			サルベージシート			
	手かぎ			簡易ジャッキ			コードリール			
	ホース			チェーンソー			ストーブ・ヒーター			
	管槍・ノズル			可搬式ウインチ			冷風機			
	レンチ・モンキーレンチ			エンジンカッター			発電機オイル			
	媒介金具類			のこぎり		炊き出し用具	かまどセット			
	消火用ボックス			つるはし			コンロ	2		
	携行ガソリン缶			ハンマー			鍋・やかん類	5		
レスキューシート	58	おの			ポリタンク					
消火用マット	8	はしご・脚立			カセットコンロ		12			
救急・救護用具	救急セット	1		コンクリート破碎器具		カセット		その他	拡声器(メガホン)	
	多人数用救急箱			災害救助工具セット		トランシーバー	5			
	折畳み式担架	1		とびぐち		拍子木	10			
	車いす	1		救助用ロープ		カメラ				
	牽引式補助具		救助用安全帯		ヘッドライト	2				
	車ドメ(木)		ブルーシート		のぼり旗	1				
	三角巾	140	ボルトクリッパ							

# ■名倉小学校中庭 防コミ資機材庫 収容品リスト

区分	品名	数量	区分	品名	数量	区分	品名	数量	
消火用資機材	動力消防ポンプ		個人装備品	ヘルメット	15	搬送用・本部用資機材	折畳みリヤカー	1	
	粉末消火器	5		Tシャツ			一輪車		
	強化液消火器			夜光ベスト			台車		
	訓練用消火器	9		手袋(軍手)	82		本部用テント		
	布バケツ	16		腕章			折畳み式テーブル		
	組立水槽	1		携帯用電灯	2		携帯発電機	2	
	オイルパン			皮手袋	20		投光機	3	
	スタンドパイプ		救出・救助用資機材	スコップ	15		訓練用放送セット		
	消火栓キー			バール	3		サルベージシート		
	手かぎ			簡易ジャッキ	2		コードリール	2	
	ホース			チェーンソー			ストーブ・ヒーター		
	管槍・ノズル			可搬式ウインチ			冷風機		
	レンチ・モンキーレンチ			エンジンカッター			発電機オイル	1	
	媒介金具類			のこぎり	12		炊き出し用具	かまどセット	
	消火用ボックス			つるはし	8			コンロ	
携行ガソリン缶	1	ハンマー		6	鍋・やかん類				
レスキューシート		おの		2	ポリタンク	2			
消火用マット		はしご・脚立			カセットコンロ				
救急セット		コンクリート破碎器具			カセット	6			
救急・救護用具	多人数用救急箱			災害救助工具セット		その他	拡声器(メガホン)		
	折畳み式担架	1	とびぐち		トランシーバー				
	車いす		救助用ロープ		拍子木		1		
	牽引式補助具		救助用安全带		カメラ				
	車ドメ(木)	2	ブルーシート	10	ヘッドライト				
	三角巾		ボルトクリッパ	2	のぼり旗				

## ■明泉寺北公園防災資機材リスト（耐震性防火水槽備品）

区分	品名	数量	区分	品名	数量	区分	品名	数量
消火用資機材	動力消防ポンプ	1	個人装備品	ヘルメット		搬送用・本部用資機材	折りみりヤカー	
	粉末消火器			Tシャツ			一輪車	
	強化液消火器			夜光ベスト			台車	
	訓練用消火器			手袋（軍手）			本部用テント	
	布バケツ			腕章			折りみみ式テーブル	
	組立水槽			携帯用電灯			携帯発電機	
	オイルパン			皮手袋			投光機	
	スタンドパイプ		救出・救助用資機材	スコップ	1		訓練用放送セット	
	消火栓キー	1		バール			サルベージシート	
	手かぎ	1		簡易ジャッキ			コードリール	
	ホース	7		チェーンソー			ストーブ・ヒーター	
	管槍・ノズル	2		可搬式ウインチ			冷風機	
	レンチ・モンキーレンチ			エンジンカッター			発電機オイル	
	媒介金具類	1		のこぎり			炊き出し用具	かまどセット
消火用ボックス		つるはし			コンロ			
携行ガソリン缶	1	ハンマー			鍋・やかん類			
レスキューシート		おの			ポリタンク			
消火用マット		はしご・脚立			カセットコンロ			
		コンクリート破砕器具			カセット			
救急・救護用具	救急セット			災害救助工具セット		その他	拡声器（メガホン）	
	多人数用救急箱			とびぐち			トランシーバー	
	折りみみ式担架		救助用ロープ		拍子木			
	車いす		救助用安全帯		カメラ			
	牽引式補助具		ブルーシート		ヘッドライト			
	車ドメ（木）		ボルトクリッパ		のぼり旗			
	三角巾							

# 被害状況集約表

No	覚知日時		発生場所	被害種別	通報状況		処置状況		備考
	覚知	処置			通報者	内容	対応者	内容	
1	:				通報者		対応者		
	:				内容		内容		
2	:				通報者		対応者		
	:				内容		内容		
3	:				通報者		対応者		
	:				内容		内容		
4	:				通報者		対応者		
	:				内容		内容		
5	:				通報者		対応者		
	:				内容		内容		

# 避難者名簿

避難所名: \_\_\_\_\_

作成日: 年 月 日

No.	フリガナ 氏名	住所	性別	年齢	要 援 護	備 考 (持病の有無や配慮事項等)	退 所 日
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							



# 情報収集・伝達

- 1 ラジオ、テレビ、防災行政無線等で地震情報等の収集を行う。
- 2 地域内の災害情報を把握する。

## 情報収集・伝達手順

### 1 情報収集

収集した情報はホワイトボード等に時系列で記載する。

#### (1) ラジオ等での情報収集

通信手段が確保されている場合は、ラジオ、テレビ、防災行政無線のほか、電話等も活用する。

#### (2) 行政からの情報収集

各種機関へ直接連絡を取り、必要な情報を収集する。また、定期的に区役所等に出向くなどして、公開されている情報を収集する。

#### (3) 各自治会からの情報収集

地区内の被害状況や避難状況等の情報を収集する。

### 2 情報伝達

情報を伝える手段として、ハンドマイク、広報掲示板、回覧板も効果的に活用する。

# 安否確認

- 1 安否確認情報を収集する。
- 2 安否不明者の確認を行う。
  - (1) 事前に用意している災害時の要援護者名簿に基づき安否確認を行う。
  - (2) 事前に用意していない場合は、民生・児童委員等と協力し安否確認を行う。

## 訪問先での確認手段

- 1 外観の確認  
建物に甚大な被害がないかを確認する。
- 2 声かけ・呼びかけ確認  
門の外側で大きな声で呼びかけ、安否を確認する。
- 3 ドアをノックする  
応答がないときは、呼びかけと一緒にドアをノックする。
- 4 庭、勝手口等の確認  
状況が把握できないときは、庭、勝手口などの確認する。

# 消火活動

- 1 ポンプの使い方の研修を受けた人が中心となり、耐震性防火水槽の小型動力ポンプ等を活用し、初期消火を行う。
- 2 出火場所を確認し、消火活動人員を割り振る。

## 消火活動手順

### 1 消火用水の選定

- (1) 火元に近い消火用水を選定し、強風時には風上側の消火用水を使うなど風向きに注意する。
- (2) 河川使用時はストレーナーを水の流れに向けて投入し、浮かび上がらないようにする。
- (3) ポンプから水面までの高低差はC級で7m以内、D級で4m以内を目安とする。

### 2 ホースの延長要領

- (1) 道路、建物の曲がり角では大きく曲げて、折れやねじれ、引きずりを避ける。
- (2) ホースの結合は漏水しないように確実に行う。

### 3 送水の時期

- (1) ホースの延長状況や筒先担当の「放水始め」の合図があってから送水する。
- (2) 放口コックを開けるときは筒先の反動力を考え徐々に行う。

# 救出・救護活動

- 1 防災資機材（ジャッキ、のこぎり、バール等）を活用し、協力して救出活動を行う。
- 2 救護（応急手当）を実施する。
- 3 本部に集まった人で、救出・救護活動人員の割り振りを行う。

## 救出・救護手順

### 1 被害の実態把握

- (1) 倒壊建物に取り残されている人がどのような状態か（けがの程度も含めて）確認する。
- (2) 建物の倒壊状況および内部に進入するスペースがあるかを確認する。
- (3) 二次災害が発生する危険要因がないか確認する。

### 2 二次災害の防止

- (1) 木片、トタン、ガラス等の軽量物を除去する。
- (2) 柱、梁等の大きな物の周辺物を除去するときは、これらの大きな物がずれたり倒壊しないようにロープ等で支持、固定する。
- (3) 火災の発生に備え、消火器や水バケツを用意する。ガスの元栓や電気のブレーカーは早期に閉止や遮断を行う。

### 3 要救助者の救出

- (1) 要救助者の近くまで掘り進んだ後は資機材を使わずに手作業にする。
- (2) 要救助者を無理に引き出そうとしない。

### 4 応急手当

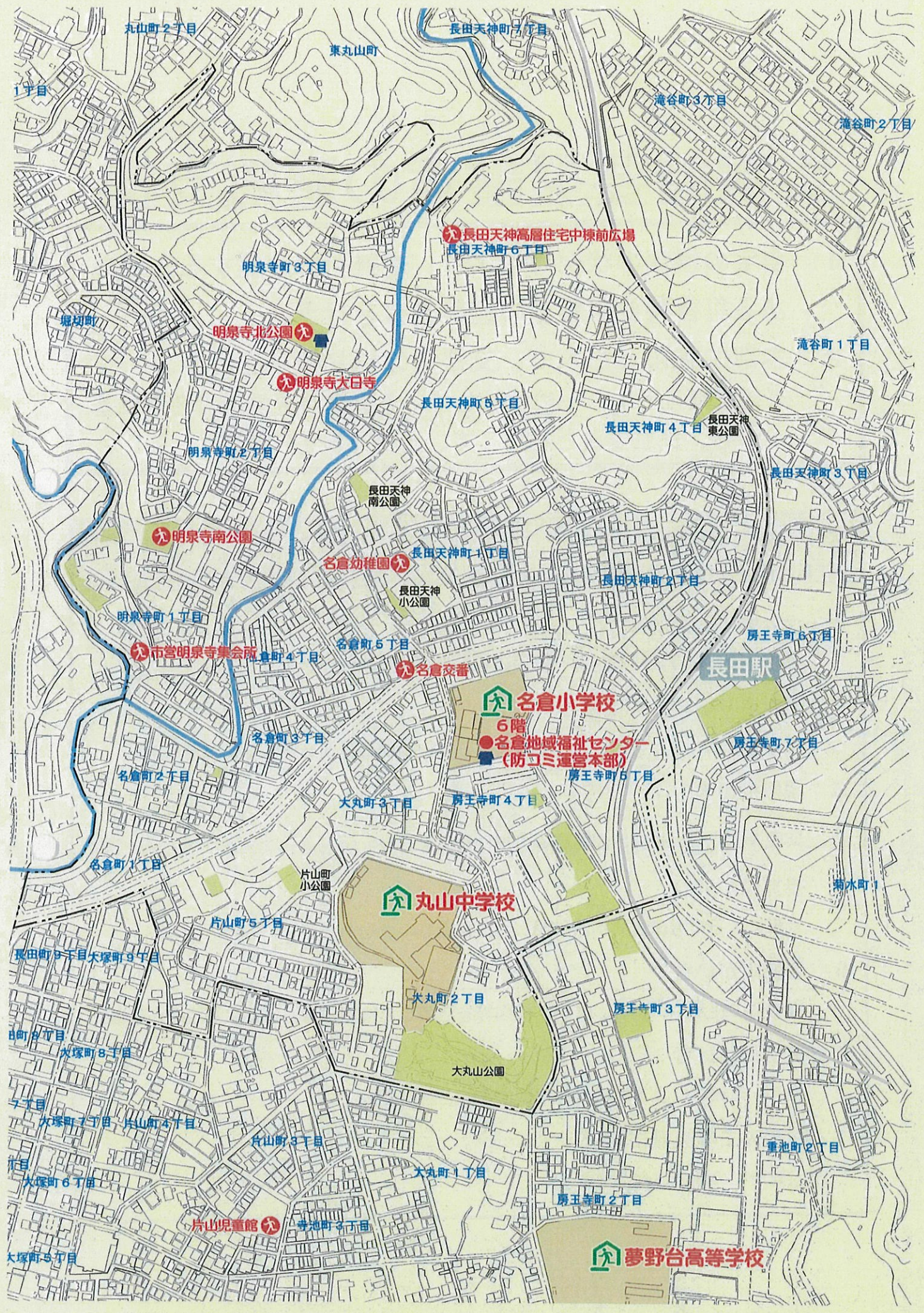
出血しているときは清潔なガーゼ等で傷口を圧迫止血する。

# 災害時要援護者の避難支援

- 1 自宅の損傷の状況等により、避難所に避難する必要のある災害時要援護者の避難支援を行う。
- 2 本部に集まった人で、支援者の割り振りを行う。  
※地域福祉センターに保管している災害時要援護者名簿に基づき、民生委員と連携して、避難支援を行う。

## 避難支援のポイント

- 1 一人暮らし高齢者  
迅速な情報伝達と避難誘導、安否確認および状況把握が必要。
- 2 寝たきりの要介護高齢者  
避難時は車いす、担架、ストレッチャー等の補助器具が必要なことがある。
- 3 認知症の人  
安否確認、状況把握、避難誘導の援助が必要。
- 4 視覚障がい者  
音声による情報伝達や状況説明、避難誘導等の援助が必要。
- 5 聴覚障がい者  
補聴器の使用や、手話、文字、絵図等を活用した情報伝達および状況説明が必要。
- 6 言語障がい者  
手話、筆談等によって状況を把握することが必要。
- 7 在宅人工呼吸器使用者  
避難所での電源確保が必要。



丸山町2丁目

東丸山町

長田天神町7丁目

流谷町3丁目

流谷町2丁目

1丁目

明泉寺町3丁目

長田天神高層住宅中棟前広場

長田天神町6丁目

流谷町1丁目

明泉寺北公園

明泉寺大日寺

長田天神町5丁目

長田天神町4丁目

長田天神東公園

長田天神町3丁目

明泉寺町2丁目

長田天神南公園

名倉幼稚園

長田天神町1丁目

長田天神町2丁目

明泉寺南公園

明泉寺町1丁目

長田天神小公園

房王寺町6丁目

市宮明泉寺集会所

名倉町5丁目

名倉交番

長田駅

名倉小学校

6階  
名倉地域福祉センター  
(防ゴミ運営本部)

房王寺町7丁目

名倉町2丁目

名倉町3丁目

房王寺町4丁目

房王寺町5丁目

名倉町1丁目

片山町小公園

丸山中学校

菊水町1

片山町5丁目

大丸町3丁目

大丸町2丁目

房王寺町3丁目

長田町9丁目大塚町9丁目

大丸山公園

大塚町8丁目

片山町3丁目

大丸町1丁目

重池町2丁目

大塚町7丁目

大塚町6丁目

片山児童館

寺池町3丁目

房王寺町2丁目

夢野台高等学校

大塚町5丁目